第４回
岩手医科大学
研究者支援講演会

研究者支援と組織の活性化
― 岩手大学の経験をふまえて ―

講師：菅原 悦子 先生
岩手大学 副学長/男女共同参画推進室長

日時：平成 27 年 2 月 17 日（火）
18 時～19 時 20 分
講演会終了後：情報交換会（内丸キャンパス）

会場：内丸キャンパス創立 60 周年記念館
10 階会議室
矢巾キャンパス 本部棟４階
大会議室（サテライト会場）

主催：研究者支援室設置準備委員会

ホームページ：http://iwate-med.net/

お問い合わせ：岩手医科大学研究助成課 TEL:019-651-5111（代）内線 3268

プログラム

18：00　開会挨拶

岩手医科大学 研究者支援室設置準備委員会 委員長
増田 友之

学長挨拶

岩手医科大学 理事長・学長
小川 彰

岩手医科大学における研究者支援活動の現状

岩手医科大学 研究者支援室設置準備委員会 委員
関 安孝

18：20　講演

座長：岩手医科大学 研究者支援室設置準備委員会 副委員長
大橋 綾子

研究者支援と組織の活性化 – 岩手大学の経験をふまえて –

岩手大学 副学長/男女共同参画推進室長
菅原 悦子 先生

19：20　閉会挨拶

岩手医科大学 事務局長
髙橋 俊雄

19：30～20：00　情報交換会（フリートーク）

内丸キャンパス 創立 60 周年記念館 10 階　同窓会室

※ 軽食をご用意いたしております

ごあいさつ

小川　彰

岩手医科大学　理事長・学長

平成 11 年に「男女共同参画社会基本法」が施行され、平成 22 年には、第 3 次男女共同参画基本計画が打ち出され、改めて「2020.30」が掲げられております。しかし、日本全体としては、男女共同参画社会形成の道半ばであり、女性の活躍推進のためには、平等に働ける環境の整備、女性研究者のキャリア意識の保持、男性研究者の意識改革など、これまでの男女共同ではなく、家庭も職場においても男女平等の意識が必要であると考えております。

本日は、県内の大学として、平成 20 年に男女共同参画推進室を設置され、男女共同参加事業を積極的に展開されておられる岩手大学副学長の菅原悦子先生にご講演をいただきます。岩手大学の男女共同参画推進室の取組、特に全国的に注目されている取組みなどを通して、本学における男女共同参画の形成の一助となることを期待します。

さて、本学は、かねてより進めてまいりました総合移転整備事業は最終段階を迎え、平成 31 年には矢巾キャンパスに新附属病院が開院の予定であります。この壮大な事業の完成を目前に控えた平成 29 年は、岩手病院、医学講習所の設置から数えて 120 年目の節目にあたります。本学創設者の三田俊次郎先生は、今から 120 年前に、全国に先駆けて、医師養成のほか、看護師や助産師の養成を行っておりますので、日本でも数少ない医育機関として男女が共に学び働く職場として歴史を刻んでまいりました。

本学が 120 年の歴史と伝統を踏まえさらに進歩発展していくためにも教職員をはじめ、すべての学生が、性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる新しい岩手医科大学が形成されていることを願っております。

研究者支援と組織の活性化
― 岩手大学の経験をふまえて ―

菅原 悦子 先生
岩手大学 副学長/男女共同参画推進室長

岩手大学は、２００８年に男女共同参画推進室を設置して以降、「岩手大学男女共同参画推進宣言」、文部科学省女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）、「岩手大学男女共同参画行動計画」の策定等、ボトムアップとトップダウンによるさまざまな取組を通じて、女性研究者支援や男女共同参画を推進してきました。「女性研究者支援モデル育成」では「S」評価を受けましたが、これは、両住まい手当や One-Up 公募制度、配偶者転勤等同伴休業制度の新設等、全国的にも注目される取組があったことによります。また、２０１３年度からは文部科学省女性研究者研究活動支援事業（拠点型）に採択され、岩手医科大学をはじめとする地域の教育・研究８機関と連携し、事業を展開しています。本学で男女共同参画推進室が発足し、現在の拠点型事業に至るまでの経験をもとに、研究者支援の取り組みやその成果を中心とし、課題や今後の目標についてもお話します。

プロフィール

お茶の水女子大学家政学部卒業。同大学院修士課程を修了後、岩手県立盛岡短期大学に助手として着任。1987 年に岩手大学に移り、二人息子の子育てと研究を両立、1996 年に博士(学術)を取得し、同時に日本醸造協会技術賞を受賞した。1999 年に岩手大学教育学部教授に就任。2004 年、子どもの大学進学を契機に新たな研究に挑戦するため、在外研究員としてフランスとドイツの大学に滞在した。味噌・醤油の調理加工による香気成分の変動の研究や、岩手県の郷土食を次世代に伝えるための調査研究や食育に取り組む。

2010 年 岩手大学副学長（男女共同参画・附属学校担当）に就任。岩手大学は同年に文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、One-Up 公募制度や両住まい手当などのポジティブアクション、男女共同参画の理念に根差した女性研究者支援が全国から注目され、最終評価では最高の「S」を受けた。2013 年からは岩手医科大学も連携機関として参画する同省「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」を牽引。現在も男女共同参画担当副学長として活躍中。

研究者支援室設置準備委員会からのごあんない

ご存じですか？　「多目的保育室」内丸・矢巾両キャンパスで利用できます

2011 年、内丸・矢巾両キャンパスに、多目的保育室ができました！病児・病後児の保育や授乳等に、また小学生等の一時保育にもご利用いただけます。利用可能時間：平日／8：30～19：00
※事前に利用者登録が必要（登録無料）。詳しくは、研究助成課（内線 3268）まで。

研究者支援室設置準備委員会ホームページ随時更新中です！

本委員会は本学に所属する研究者が男女共同参画の精神に基づき、ワークライフバランスを保ちながら、研究に勤しむことができる環境の整備、規約の提言、啓蒙・広報活動を行うことを目的創設された、学長直属の諮問組織です。医・歯・薬・教養教育それぞれの教授会より選出された委員が研究助成課と共に、全ての研究者が安心して働ける環境作りの基礎を築くべく活動しています。男女共同参画関連のお知らせなどの情報発信も行っていますので、是非一度ご覧下さい。
URL　http://iwate-med.net/

研究者支援室 設置準備委員会メンバー（50 音順）
医学部：小山理恵、近藤ゆき子、福島明宗、増田友之（委員長）
歯学部：阿部晶子、野田 守、原田英光（副委員長）
薬学部：大橋綾子（副委員長）、関 安孝、丹治麻希
教養教育センター：東尾浩典
担当事務：研究助成課

岩手医大には例えばこんな制度があります

産前・産後休暇	（ア）出産予定日の６週間前の日から出産日までの期間 （イ）出産の日の翌日から８週間を経過する日までの期間
通院休暇	妊娠中または産後１年以内の女性職員が母子保健法に規定する保健指導または健康診査を受けるときに申請できます。
配偶者の出産休暇	職員の妻が出産のため病院に入院する等の日から出産の日後２週間を経過するまでに２日以内の休暇を申請できます。
育児休業	生後満１歳に達しない子を養育するときに取得できます。
育児短時間勤務	生後満３歳に達しない子を養育するときに申請できます。
子の看護休暇	小学校就学前の子が病気・けがをして看護するとき、または予防接種・健康診断を受けさせるときに申請できます。
介護休業	要介護状態にある家族を介護するときに取得できます。
介護短時間勤務	要介護状態にある家族を介護するときに申請できます。
介護休暇	要介護状態にある家族を介護するとき、１月１日から12月31日までの１年間に５日申請できます。

上記はあくまで概要です。詳しくは人事職員課にお尋ね下さい。

困ったときの相談窓口もあります

本学では「セクシャル・ハラスメント及びこれに類する人としての尊厳を侵害する行為」を防止するため、平成17年より、本学の職員並びに学生等の全ての「学内関係者」を対象にしたセクシャル・ハラスメント等の相談窓口が開設されました。相談員は、所属や男女比を配慮し構成されています。現在、人事職員課職員、教員、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーの計５名です。速やかな解決を目指し、苦情相談に係る問題の事実確認や、就学・就労への不利益を受けないような対応に努めています。公正な事情聴取とプライバシーの保護を最優先しています。ハラスメント等の事実が確認された場合は、被害者本人の同意のもと、人事委員会へ報告します。

詳しくは、下記の URL をご覧下さい。

http://w3j.iwate-med.ac.jp/jinjika/private/sexualharassment.pdf

※平成27年度よりハラスメント等の相談体制が更に充実する予定です

（１）相談員が増員され、相談し易くなります
（２）相談内容の範囲が拡張されます
（３）人権問題委員会（仮称）が設置され、相談の窓口と解決のステップが明確となり、相談内容に即した柔軟な対応が可能となります

Iwate Medical University 岩手医科大学